

令和5年度埼玉県 スマート介護施設モデル事業

より良く認知症と向き合うために
テクノロジーを活用する



社会福祉法人 杏樹会
グループホーム ほほえみ
管理者 大極 春美

● <http://anjyukai.or.jp/gh> ●





社会福祉法人 杏樹会 グループホーム ほほえみ

■開 設 2019年3月15日

■所在地 埼玉県入間市新光115-1

■事業所種別等

- ・地域密着認知症対応型共同生活介護 18床
- ・令和5年度埼玉県スマート介護施設モデル事業



| | | | | | |
|--------------|-------|-------|----|-------|----|
| ほほえみ総職員数 | 17名 | | | | |
| 常勤職員 | 8名 | 男性 | 2名 | 女性 | 6名 |
| 非常勤職員 | 9名 | 男性 | 1名 | 女性 | 7名 |
| 男女比率 | 男性 | 17.6% | 女性 | 82.3% | |
| 入居者 平均年齢 | 87.8歳 | | | | |
| 平均介護度 | 2.12 | | | | |
| 認知症日常生活自立度平均 | Ⅲa | | | | |



令和5年度スマート介護モデル事業 スタートアップワークショップ



事前に記入した事業所
全職員による気づきシー
トを整理し因果関係図
を作成して組織の課題
の見える化を実施



令和5年7月11日埼玉会館
にて実施されたスタート
アップワークショップ
行政説明とNTTデータ研究
所による今事業の進め方
等説明が行われた



作成した因果関係図は、
原因、結果、悪影響に
沿って考えそこからロ
ボットで解決できる求め
る打ち手を考えていく





介護ロボット導入の正しい9つのステップ



介護サービスにおける生産性向上のための7つの取組
取り組み2) 業務の明確化と役割分担：(2) テクノロジーの活用
9つのステップ
プロジェクトの流れ

準備期

導入前期

導入後期

I, 情報収集
II, 組織全体での合意形成
III, 実施体制の整備

IV, 課題の見える化
V, 導入計画づくり
VI, 試行的導入の準備

VII, 試行的な導入
VIII, 小さな成功事例の共有
IX, 本格的導入に向けた
手順書・マニュアル作り

・プロジェクトチームの立ち上げ
・役割分担の決定

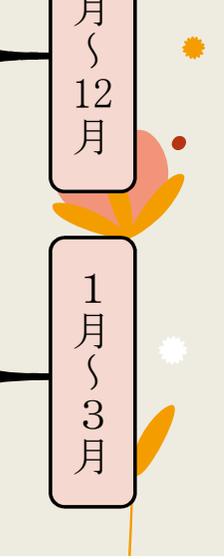
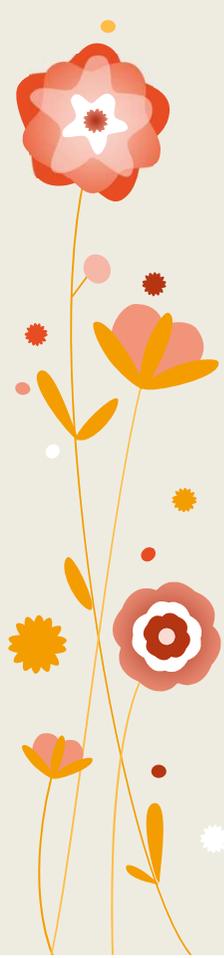
・因果関係図の作成
・機器のデモの実施
・機器の導入
・職員への周知
・新オペレーション、マニュアルの作成

・小さな成功事例の共有
・新オペレーションの修正
・新マニュアルの完成
・KPIの測定

8月

9月～12月

1月～3月



取り組み全体の流れ

準備

現場中心のプロジェクトチームを立ち上げ組織として介護ロボット導入に向けて合意形成する



見える化

気づき事から因果関係図を作成し組織の課題が見える化、ロボットで解決できる求める打ち手を決定する



新オペレーションが定着したところで小さな成功体験を集め、共有、KPIを測定し課題が改善したか見える化した



Action

職員が使用するためのムラを無くすため新たに機器を使った業務オペレーションを作成し導入する

機器のデモと選定、既存のオペレーションの見直しとマニュアルの作成を実施する



Plan

オペレーションを見直し、リスクを分析、必要な研修を全員に実施後に試行的導入にて職員が使用を体験



Do



Check

準備期（事業所が目指すべき姿、現在の課題と想定される解決策）

「本事業ではほほえみが目指すべき姿」

見守りセンサー型介護ロボットを導入し、職員が活用できることで、居室の中や死角での転倒への対応、職員の身体的・精神的負担を軽減し、効率的で働きやすい職場が持続する運営を実現する。また入居者の方々には、睡眠時間の確保と安心を提供する。経営面では入院による長期の減収を減らし、安定した収入を確保する。

「現在の課題と想定される解決策」

昼夜を問わず、居室内での転倒予防が必要という課題が顕在化している。現在の動態検知センサーは体動で反応するため、夜間は無駄な訪室も多く、より正確で制度の高い見守りセンサー型ロボットを導入することは、手持端末にICT機器を併用する事で、危険の予兆を察知できるだけでなく、誤報による職員の訪室回数の減少、肉体的負担の軽減、転倒に対する不安と言う精神的負担の減少で、継続的に不平不満のない働きやすい職場の実現が期待できると考えた。

「解決策として介護ロボットに求めた機能」

- ・離れた場所から転倒危険時など必要に応じて居室内の様子が確認できるカメラ機能
- ・離床センサーとしての反応速度と生体センサーの有無
- ・介護ロボットが捉えた数値等を施設で使用している記録ソフトに自動同期する機能
- ・システム一式の金額的ができる限り多くの機体を購入できること
- ・購入後のメーカー担当者のフォローアップ体制

準備期（情報収集：モデル事業実施済施設への見学）

令和3年度スマート介護施設モデル事業を実施された埼玉県入間市の特別養護老人ホーム様に見守りセンサー型介護ロボットと事業で実施した業務改善などをヒアリングさせていただきました。



令和4年度スマート介護施設モデル事業を実施された埼玉県行田市の特定施設入居者生活介護施設様に見守りセンサー型介護ロボットと事業で実施した業務改善などをヒアリングさせていただきました。



準備期（情報収集：会議などで検討した介護ロボットの種類）



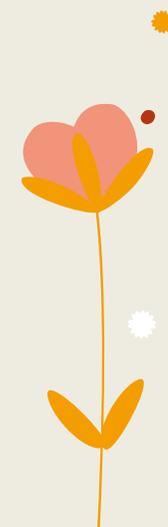
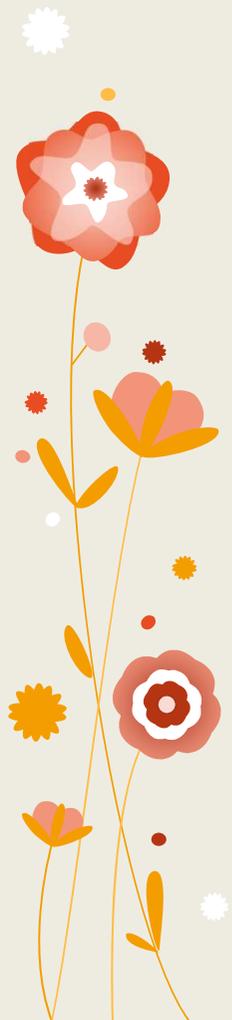
※比較データはカタログ値などを参照して作成しています

| 機器名称 | 映像確認 | 価格(定価) | ランニングコスト | 設置の移動が可能 | ナースコールの連動 | 離床センサー速度 | ケア記録連動 |
|------|---------|--------|----------|----------|-----------|----------|------------|
| A社製品 | ○ | △ | 無 | △ | × | ○ | ○ |
| B社製品 | ○ OP | × | 有 | × | ○ OP | △ | ○ |
| C社製品 | ○ | △ | 無 | △ | × | ○ | × |
| D社製品 | ○ OP | ○ | 無 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| E社製品 | ○ | × | 有 | △ | ○ | × | ○ |
| F社製品 | × | △ | 無 | ○ | ○ | △ | × |
| G社製品 | ○ OP | ○ | 無 | ○ | ○ | △ | △ 一部ソフト |
| H社製品 | ○ OP | ○ | 無 | ○ | ○ | ○ | ○ |

準備期：実施体制の整備



1. ほほえみ全職員へ向けて、令和5年度の埼玉県スマート介護施設モデル事業に名乗りをあげ、プロジェクトチームを作ること伝え、合意形成を行う。
2. プロジェクトチーム中核メンバーを管理者・両ユニットリーダー・介護職員より1名の計4人に決定し、職員に周知。
3. プロジェクトチーム中核メンバーの中で得意分野を活かし、役割分担を決め、1人2つの役を担当。
4. プロジェクトチーム中核メンバーだけで進めるのではなく、決定事項以外にも現在の進行状態などを、細かく全職員に伝えていくことにした。





準備期（実施体制の整備）で工夫した点

- 課題：プロジェクトチーム中核メンバーだけで導入機器の選定を決定して良いか、または全職員から合意形成を得るべきか、線引きが難しい面があった。またプロジェクトチーム中核メンバーが4人でもなかなかシフトが合わず、対面で話し合いができない等早速課題が浮き彫りになっていった。
- 工夫1：全職員からアンケートで収集した意見を参考に、チーム中核メンバーで最終決定することにした。
- 工夫2：チャットワークやLINEなどのICTツールを活用し、話し合いを重ね意見交換を深める事とした。
- 工夫3：全職員に対しては、書面等で意見を求め、それ以外にも個別に声掛けし、本音のところを聞き出したり、意見交換をすることで職場全体の合意形成に努めた。

～ 9つのステップ：準備期で大切にしたこと～

①情報収集



- 各ロボットの利点、欠点、値段、納期などを多角的に見ること

②組織全体での合意形成



- なかなか全員で話し合う機会が持てないので、書面で意見を集めたが、個々に声掛けもし、書ききれない思いや質問などを聞き取りした。

③実施体制の設備



- プロジェクトチーム中核メンバーのシフトも揃わないのでチャットワーク等ICTツールを使用して話し合いを重ね意見をすり併せていった。



職場全体の合意形成の 위해서는書面やICTツールだけではなく、小さな意見も拾い上げる努力が必要です！



導入前期

1、現在抱えている課題の見える化



転倒事故とセンサーやナースコールの誤報による業務の煩雑さが課題と浮き彫りになっています。



2、導入計画作り

| 項目 | 概要 | 担当者(中心) | 計画期 | 導入予定地 |
|----|----------------|---------|-----|-------|
| 1 | 導入の目的と意義を明確にする | ... | ... | ... |
| 2 | 導入のスケジュールを決定する | ... | ... | ... |
| 3 | 導入の予算を算出する | ... | ... | ... |
| 4 | 導入のリスクを評価する | ... | ... | ... |
| 5 | 導入の効果を測定する | ... | ... | ... |

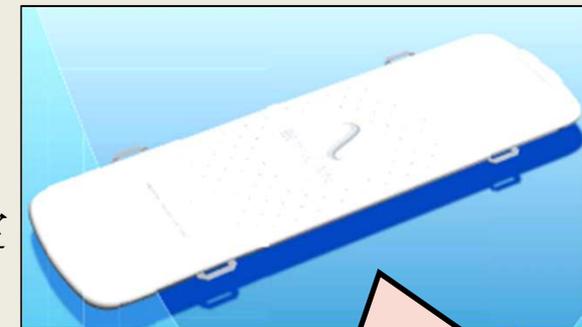
導入計画書には目的や意義から始まり予想される機器や導入スケジュールの他KPIの測定目標なども記載されチームの合意形成を図っていきます。

4、試行的導入の準備



3、介護ロボットの選定

手持端末とタブレット端末等表示されたアイコンの種類でどのような確認作業とするか検討して行きました。



最終的に5機種の実験使用を1週間ほど実施後、全職員のアンケート結果をもとに求める機能を有した新型眠りスキャンの導入を決定しました。

導入前期（実際にデモ貸出を使用で検討した介護ロボット）

※実際にデモをして頂いた順に記載、価格は見積もりを作成時の金額を参照

| 機器名称 | 映像確認 | 価格 (見積もり) | ランニング コスト | 設置の移動が 可能 | ナースコールの 連動 | 離床セン サー速度 | ケア記録 連動 |
|------|--------|--------------|--------------------|--------------|---------------|--------------|------------|
| A社製品 | ○ | △ | 無 | ○ | 無 | ○ | ○ |
| G社製品 | ○ (OP) | △ | 無 | ○ | ○ | △ | 自施設× |
| C社製品 | ○ | △ | 無 | ○ | 無 | ○ | × |
| D社製品 | ○ (OP) | ○ | 無 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| H社製品 | ○ (OP) | ○ | 無 (本体) 有 (クラウド) | ○ | 無 | ○ | ○ |

カメラがベッドを基準として人の動きを判断し起き上がりから転倒までシルエット表示で見守れ誤報が少ない。1週間の貸出デモで試用使用。



生体センサーや離床センサーネットワークカメラを備え、オプションで様々なセンサーを追加可能。メーカーのデモンストレーションを実施。

カメラが人体などから動きを判断し起き上がりから転倒までシルエット表示で見守れ誤報が極めて少ない。1週間の貸出デモで試用使用。



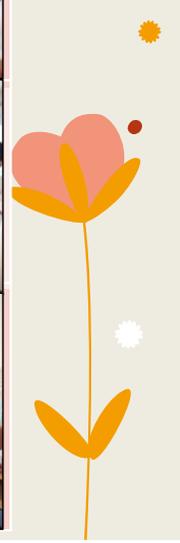
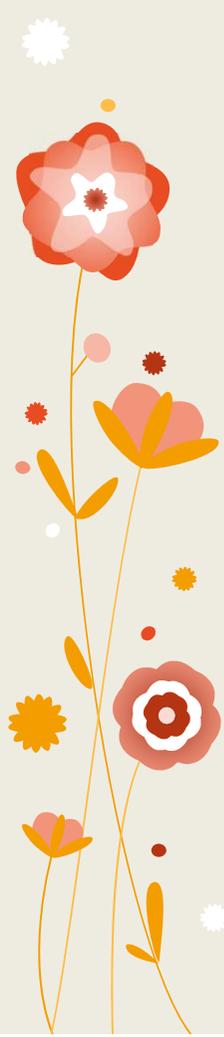
生体センサーや離床センサーネットワークカメラを備え、業界シェア最大手の機体。1週間の貸出デモで試用使用を実施。

生体センサーや離床センサーネットワークカメラを備え、オプションになるが旧世代も含めてクラウドソフト上でデータを一括管理が可能。



導入前期 (デモ検討した介護ロボットの特徴比較)

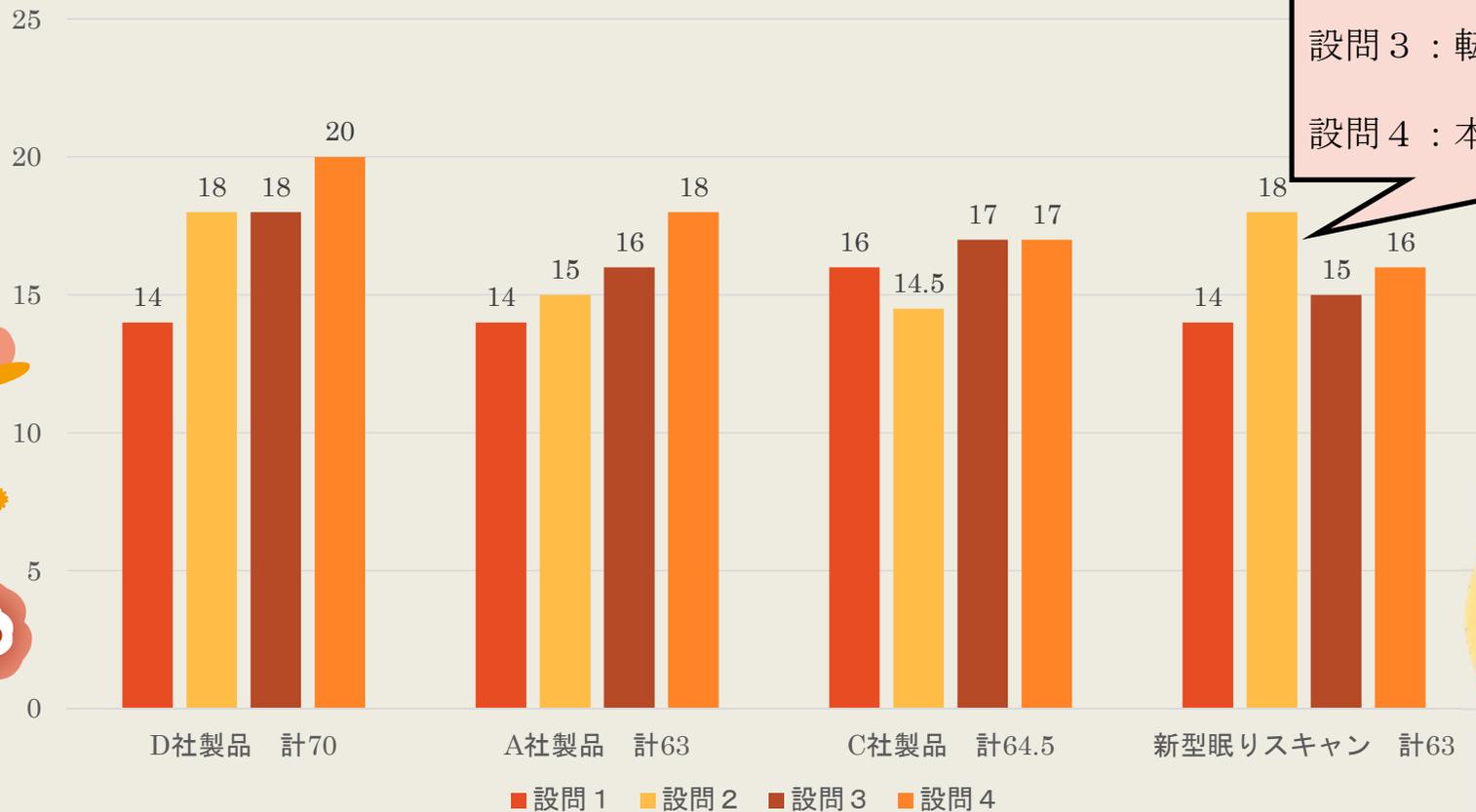
| 機器名称 | goodpoint (利点) | Badpoint (改善して欲しい点) | デモ様子 |
|------|---|--|---|
| A社製品 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度の速さ ・カメラの設置が簡単で移動可能 | <ul style="list-style-type: none"> ・置き型サーバーと連動ソフトウェアの仕様が望ましいが価格が他の機体よりもかなり高価になってしまう。 |  |
| G社製品 | <ul style="list-style-type: none"> ・マットセンサーや、他のセンサーと連携できる ・本体自体は比較的安価 | <ul style="list-style-type: none"> ・納期が今期末 ・自施設の記録システムと同期、連動が難しい。 |  |
| C社製品 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度の速さ ・見守りする位置や範囲を自由に設定できる ・カメラの設置が簡単で移動可能 | <ul style="list-style-type: none"> ・自施設の記録システムと同期、連動が無い。 |  |
| D社製品 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度の速さ ・カメラ画像が鮮明 ・自施設の記録と同期が可能 | <ul style="list-style-type: none"> ・カメラの設置が弄られてしまう位置にあると難しいので、位置によっては壁などに穴を開ける必要が生じる。 |  |
| H社製品 | <ul style="list-style-type: none"> ・反応速度の速さ ・カメラ画像が鮮明 ・自施設の記録と同期が可能 ・旧型と互換性があり一括管理が可能 | <ul style="list-style-type: none"> ・バイタル値が数字だけでなく波形グラフでも見られると良かった。 |  |



導入前期（介護ロボット選定の為のアンケート結果）

4つの設問において得点が低いものが
使いやすさが上位となっております

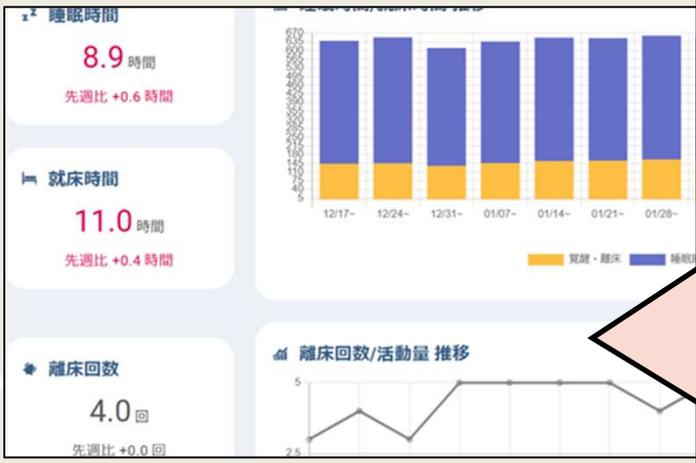
- 設問1：反応通知音などの気付きやすさ
- 設問2：反応通知と離床までの誤差時間
- 設問3：転倒・転落予防への有効性
- 設問4：本製品を導入したいと思うか



結果導入となった機器：新型眠りスキャンと眠りコネクト



新型眠りスキャンは、離床センサーとしての検知スピードの向上、広範囲をカバーする離床センサーを追加、ネットワークカメラとの連動、そしてクラウドソフト眠りコネクトの登場によって、旧世代の眠りスキャンも含めて睡眠データ、呼吸データ、心拍データなどを施設内の枠組みは勿論、法人内事業所連携をも可能としています。



日中活動を参照しながら、夜の睡眠の質を高めるためのタイムスタディの考え方を共有でき、使用方法もスマートフォンやタブレット等手持ちの端末にお知らせ表記されます。必要に応じてネットワークカメラで室内の危険度を確認できるほか、生体センサーが心拍や呼吸を検知できるので急変時の確認にも利便性を発揮します。

アイコンは睡眠や覚醒だけではなく、離床やネットワークカメラ起動など様々ありますが、直感的に使用が出来る親切設計になっています。



ポイント

試行的導入の準備（使用者の選定基準を標準化）



グループホームほほえみ転倒・転落スコアリングシート

| ユニット/氏名 | 作成日/記入者 | 特徴 | 配点 | 評価 |
|---------|---------|--|----|----|
| 認知症状 | | <input type="checkbox"/> 認知症の症状は見られない | 2 | |
| | | <input type="checkbox"/> 認知症の症状が多少見られる | 4 | |
| | | <input type="checkbox"/> 認知症の症状がかなり見られる | 5 | |
| 行動障害 | | <input type="checkbox"/> 判断力・理解力・記憶力の低下が見られる | 5 | |
| | | <input type="checkbox"/> 目的もなく動き回る（徘徊やベッドで多動） | 5 | |
| | | <input type="checkbox"/> 夜間の不眠や不穏があり昼夜逆転がちである | 4 | |
| | | <input type="checkbox"/> 不穏・興奮がある | 4 | |
| | | <input type="checkbox"/> 幻視・幻聴がある | 2 | |
| | | <input type="checkbox"/> 物を取られたなどの被害的妄想から探し回る | 3 | |
| | | <input type="checkbox"/> 能力の過信や・危険性の認知不良がある | 4 | |
| | | <input type="checkbox"/> 頑固である | 2 | |
| | | <input type="checkbox"/> 周りに左右されやすい | 1 | |
| | | <input type="checkbox"/> 攻撃性がある | 1 | |
| | | <input type="checkbox"/> コールを認識できない・理解不可 | 2 | |
| | | <input type="checkbox"/> 何事も自分でやろうとする | 4 | |
| 既往歴 | | <input type="checkbox"/> 環境の変化に慣れていない、慣れにくい | 1 | |
| | | <input type="checkbox"/> 過去に転倒・転落したことがある | 6 | |
| 感覚 | | <input type="checkbox"/> 脳卒中・神経原性に疾患がある | 3 | |
| | | <input type="checkbox"/> 視力障害がある | 2 | |
| 運動機能 | | <input type="checkbox"/> 聴力障害がある | 1 | |
| | | <input type="checkbox"/> 足腰及び下肢筋力低下がある | 5 | |
| 活動領域 | | <input type="checkbox"/> 上・下肢に痛みがある | 3 | |
| | | <input type="checkbox"/> 麻痺が見られる | 1 | |
| | | <input type="checkbox"/> 骨・関節異常がある（肉離れ・変形） | 3 | |
| 薬剤 | | <input type="checkbox"/> 歩行時、前後姿勢、ふらつきや小振り歩行、ふらつき時がある | 5 | |
| | | <input type="checkbox"/> 歩行に杖や歩行器が必要である | 2 | |
| 排洩状況 | | <input type="checkbox"/> 歩行に車椅子を使用しており、立位や車椅子を使用しているが移動は自力 | 5 | |
| | | <input type="checkbox"/> 排尿又は精神安定剤を使用している | 2 | |
| 排洩状況 | | <input type="checkbox"/> 利尿剤を使用している | 2 | |
| | | <input type="checkbox"/> 下剤を使用している | 2 | |
| 排洩状況 | | <input type="checkbox"/> 尿・便失禁がある | 2 | |
| | | <input type="checkbox"/> 排泄に介助が必要である | 2 | |
| 危険度 | | （危険度と評価） | | |
| 危険度Ⅰ | 20点～29点 | 転倒・転落を要する | | |
| 危険度Ⅱ | 31点～49点 | 転倒・転落を要する | | |
| 危険度Ⅲ | 50点～99点 | 転倒・転落を要する | | |

転倒危険度を3段階に分けて見える化するために作成したスコアリングシート。危険度によって機器の機能の使用可否を判断しています。

グループホームほほえみ見守りセンサー型介護ロボット対象者アセスメントシート

作成年月日 年 月 日 記入者

| | | |
|-------------------------------------|------|----------------|
| ユニット名 | 氏名 | |
| 年齢 | 要介護度 | ※2・1・2・3・4・5 |
| 各種情報 | | |
| 転倒転落危険度 | MMSE | |
| パーセルインデックス | 点 | |
| その他の分析 | | |
| 環境改善（配置、福祉用具の使用）によりリスクを改善できるか | | |
| 指導援助によりリスクを改善できるか | | |
| リスクを改善するために必要な情報は何か | センサー | |
| 既往歴を鑑みて生体センサーが必要か | | 必要・不必要 |
| センサー導入において本人の自立を妨げる事はないか | | 防げる・防げない・分からない |
| 各種判断 | | |
| 介護士 | | |
| 看護師 | | |
| ユニットリーダー | | |
| ケアマネジャー | | |
| 管理者 | | |
| 総合的判断 | | |
| において センサー・ センサー及びカメラ の対象者・非対象者とします。 | | |

ほほえみ入居者の方に見守りセンサー型介護ロボットが必要か統一した基準で判断するために作成したアセスメントシート。これにより過度な使用を行わないことを意識付け。



ポイント

試行的導入の準備（リスクの分析と職員研修）

研修



使用にあたってはアイコン表示の理解が重要になります。通知も様々あるので、アイコンに沿った通知の理解を出来るようにしていきました。

離床通知に併せてネットワークカメラも確認できるので、どの様な時は速やかに訪室すべきか、職員の理解度が共通になるようにしています。



眠りスキャンは睡眠日誌や呼吸日誌、心拍日誌のように健康管理に役立つ機能もあるのでクラウドソフトの説明もしています。

ポイント

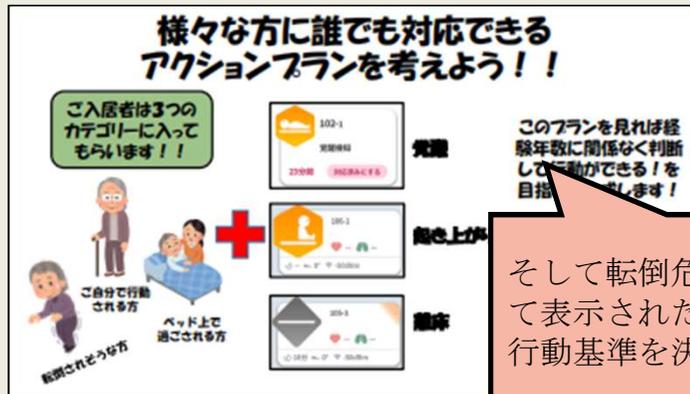
試行的導入の準備（新オペレーション・マニュアルの作成）



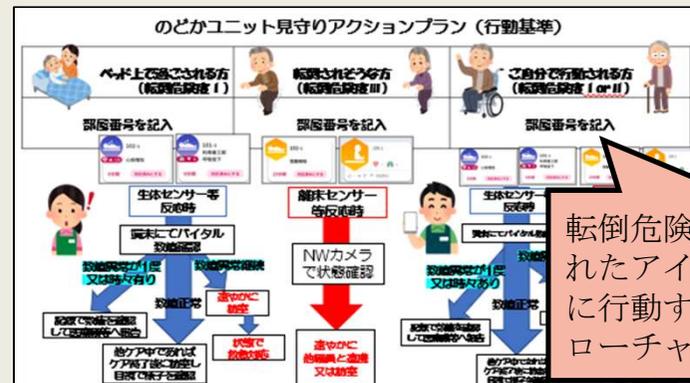
眠りスキャン本体とソフトの理解を簡単にしたマニュアル全17ページを独自に作成しました。



実際に表示されるアイコンの理解や表示方法を見える化しています。



そして転倒危険度に併せて表示されたアイコンの行動基準を決めています。



転倒危険度に併せて表示されたアイコンでどのように行動するか基準をフローチャート化しました。

～9つのステップ：導入前期で大切にしたこと～

④課題の見える化



皆の気づき事から因果関係図を作成し組織の課題を見える化し合意形成を行った

職員によって様々な立場、見方からの意見があり、まとめる事は大変であったが、一人一人の考えを知る良い機会と捉える

⑤導入計画作り

職員目線になっていないか、入居者視点に立って考えているかを意識して作成する

⑥施行的導入の準備

職員全員に導入意義や背景、今後目指す職場づくりを理解してもらえるように説明していく



導入後期

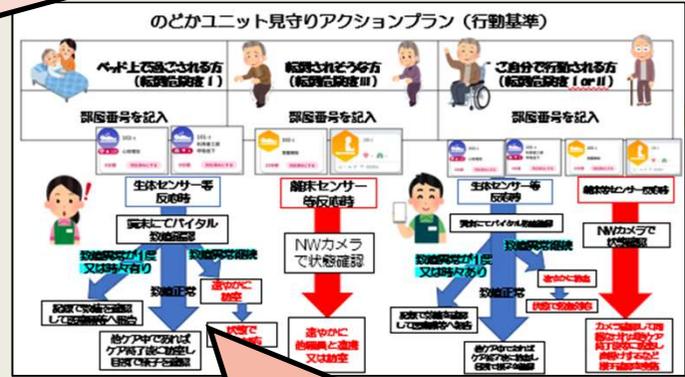


新型眠りスキャンは、離床センサーとしての検知スピードの向上、広範囲をカバーする離床センサーを追加、ネットワークカメラとの連動、そしてクラウドソフト眠りコネクットの登場によって、旧世代の眠りスキャンも含めて睡眠データ、呼吸データ、心拍データなどを施設内の枠組みは勿論、法人内事業所連携をも可能としている。

機器の使用定着の為に大切になるのが小さな成功事例の共有。現場のスタッフたちが自ら、使ってよかったという小さい出来事でも共有していく事が結果として使用の定着に寄与していく。



眠りスキャン本体とソフトの理解を簡単にした全17ページのマニュアルを独自に作成



転倒危険度に併せ表示されたアイコンでどのように行動するか基準をフローチャート化した新オペレーション



ポイント

本格導入に向けたオペレーション・マニュアルの定着

PJメンバーの危惧としては、職員全員が使いこなすには時間がかかるであろう事と、スタッフから様々な意見と共に不満や不安が聞かれるかもという事であった

解決策として

本体は勿論NWカメラやスマホ端末等、機器に慣れることが重要な為、使い方のレクチャーを繰り返し行い、職員皆が慣れると同時に、機器を使い職員がどう動くか標準化できるように新マニュアルとして作成したアクションプランを使い、それを元に再度職員に直接、機器が表記したアイコン等を受け取った後の動き方を伝え、その場で疑問・質問に答える事で、導入に不安や不満のないように対応していった



ポイント

小さな成功事例の共有



NCが鳴るたびに訪室していたことが、NWカメラ導入により様子が確認でき適切な訪室回数とタイミングがわかるようになった。



夜間巡視にNWカメラを使用する事で巡視が身体的にも精神的にも楽になった。

寝てないと思われていたが眠りスキャンで見るとしっかりと睡眠がとれていたことが分かった。



眠りスキャンの睡眠パターンを追ってみて、薬を替えた日から眠れていないことが判明し、Drに上申する際の根拠として使えた。



～9つのステップ：導入後期で大切にしたこと～

⑦ 施行的な導入



その都度設定や機器の位置の変更等、メーカーを交えて調整し、職員が問題なく快適に使用できるように配慮した

⑧ 小さな成功事例の共有



プロジェクトメンバーが率先して小さな成功事例を用紙に記入することで、メンバー以外の職員が続けて記入しやすい環境を作った

成功事例を目に見える形にすることで、皆のモチベーションも上がり、しっかりとした根拠が備わってゆく



⑨ 本格的導入に向けた手順書・マニュアル作り



経験年数に左右されず、誰が見ても同じ動きができる見やすさ重視の工夫

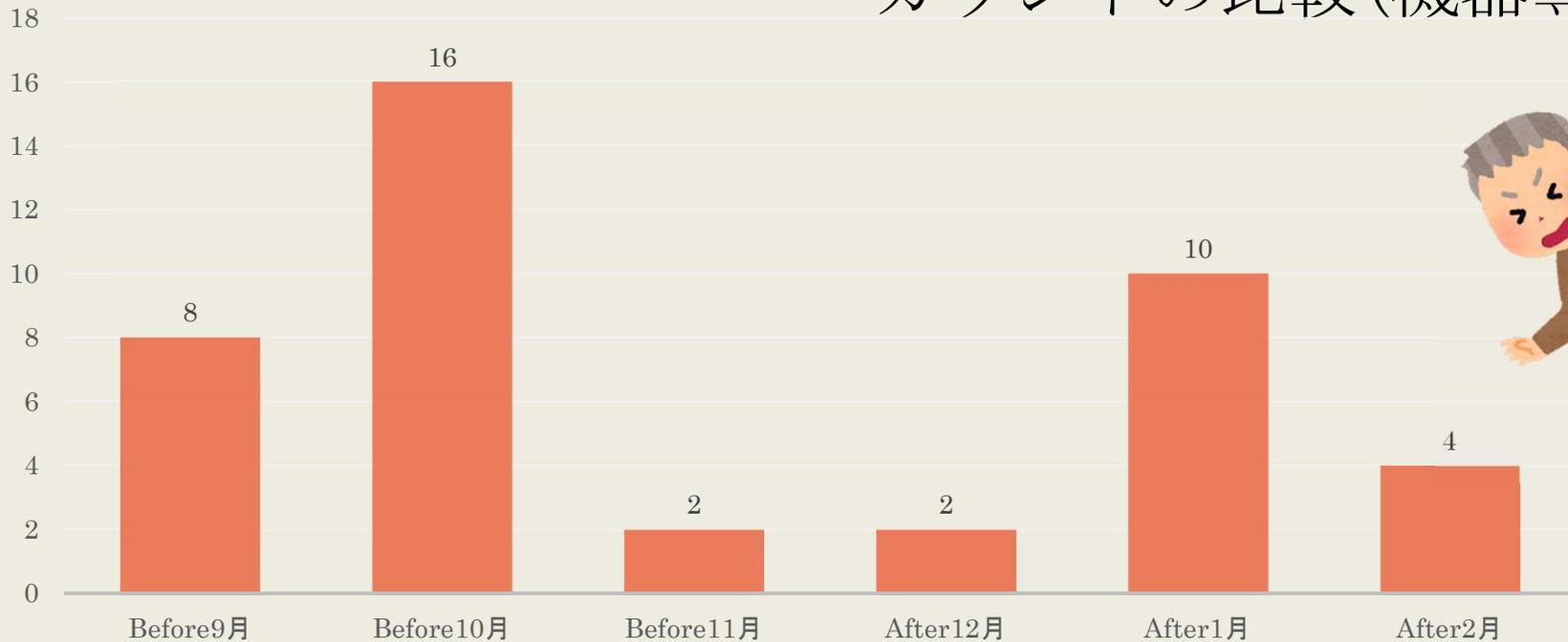


導入の成果：KPI（重要業績指標）の測定

| | ほほえみの課題から KPIを設定する文節 | 設定したKPI | KPIの測定方法 | KPIの測定ピッチ |
|---|-------------------------|------------------|---------------------|--------------|
| 1 | 入居者の方が転倒なく安全に過ごすことができ | 転倒に関するインシデント発生回数 | 転倒に関するインシデント回数のカウント | 計測期間中毎日 |
| 2 | 職員の無駄な訪室と言う問題が軽減され | 夜間訪室する回数 | 夜間の訪室回数のカウント | 計測期間中毎日 |
| 3 | 職員の肉体的負担の軽減ができ | 職員の歩数 | 歩数計 | 計測期間中毎日 |
| 4 | 職員の精神的負担の軽減ができ | 時間帯別勤務時の精神的負担 | アンケート 5段階評価 | 機器使用前及び機器使用后 |
| 5 | 不平不満のない職場になる | 時間帯別勤務時の身体的負担 | アンケート 5段階評価 | 機器使用前及び機器使用后 |

ポイント

入居者転倒に関するインシデント カウントの比較(機器導入前後)



導入前3ヶ月合計 26回

■ インシデント発生回数

導入後3ヶ月合計 16回

導入後38%減を実現！！

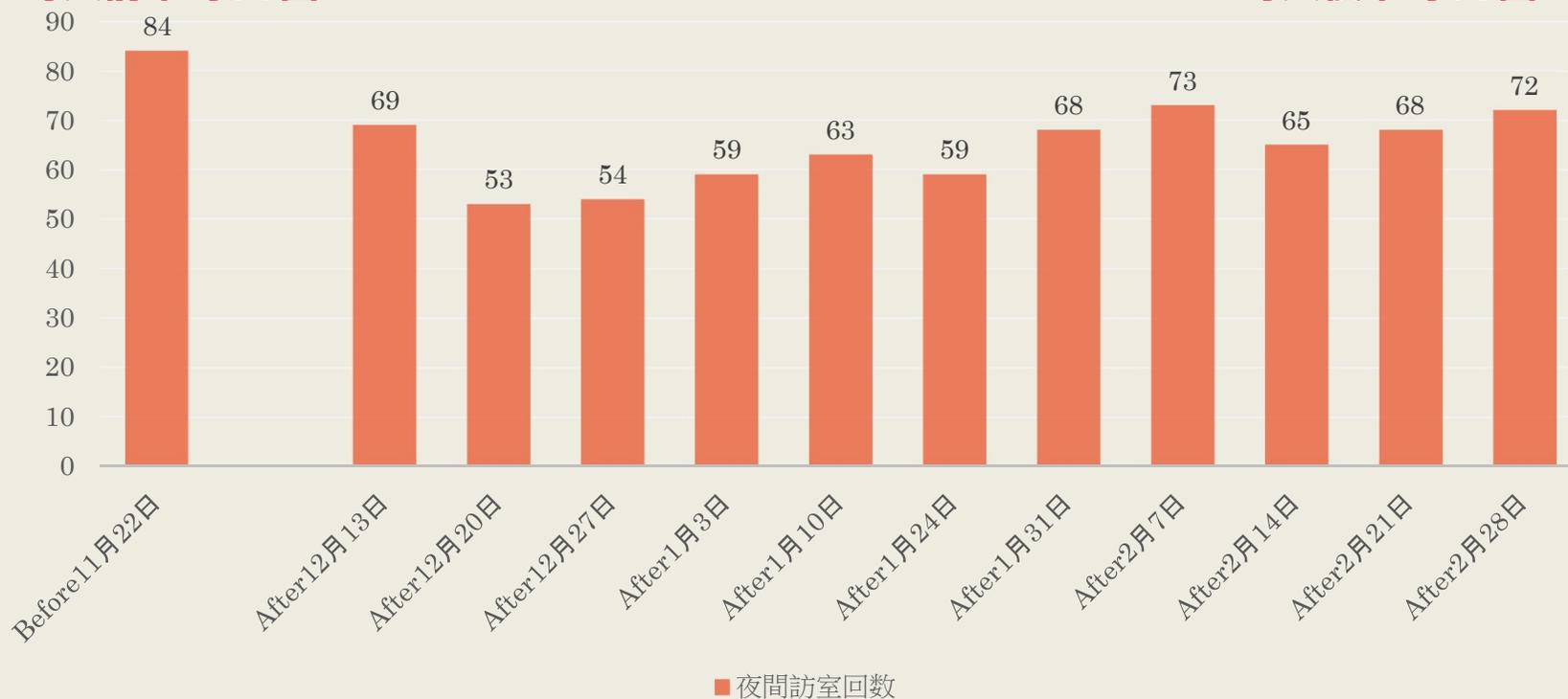


ポイント

夜間帯の訪室回数の比較（機器導入前後）

導入前平均80回

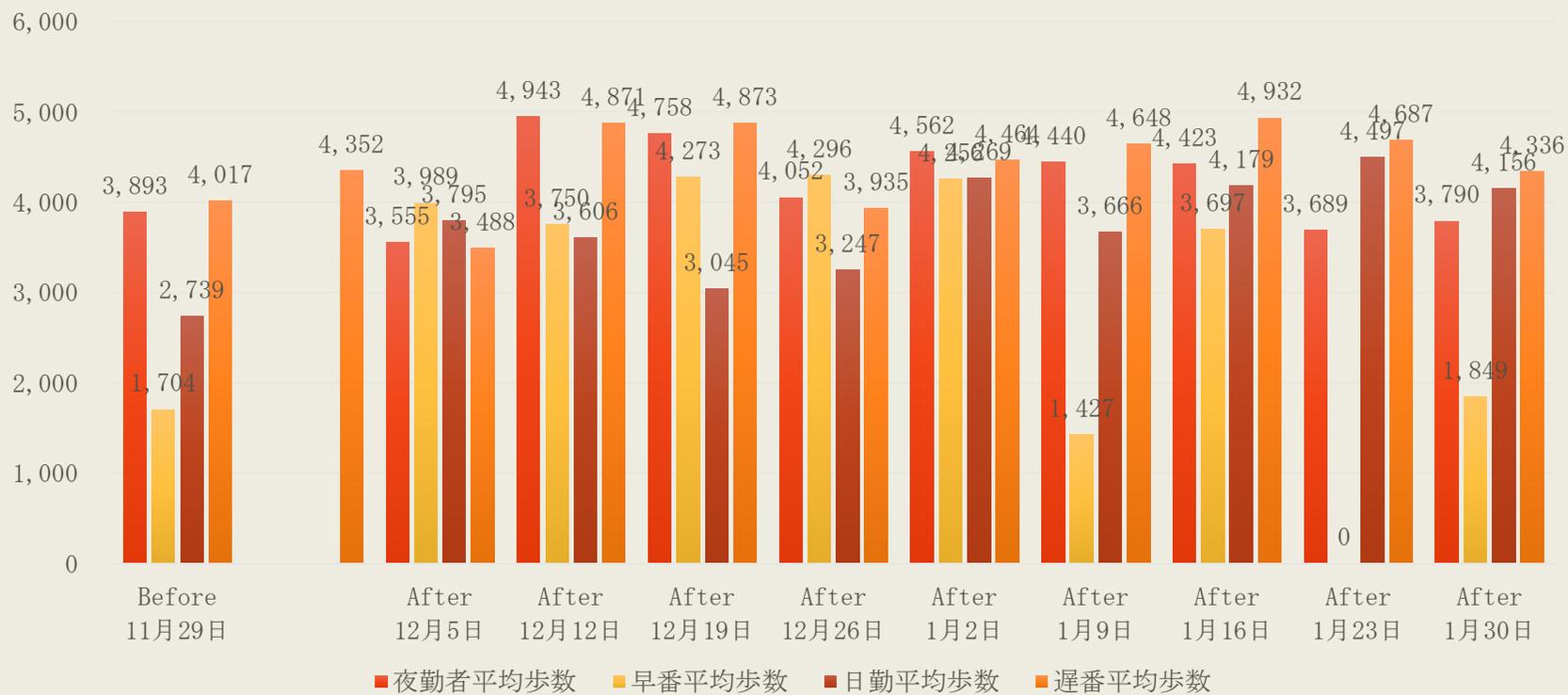
導入後平均65回



導入後20%減を実現！！

ポイント

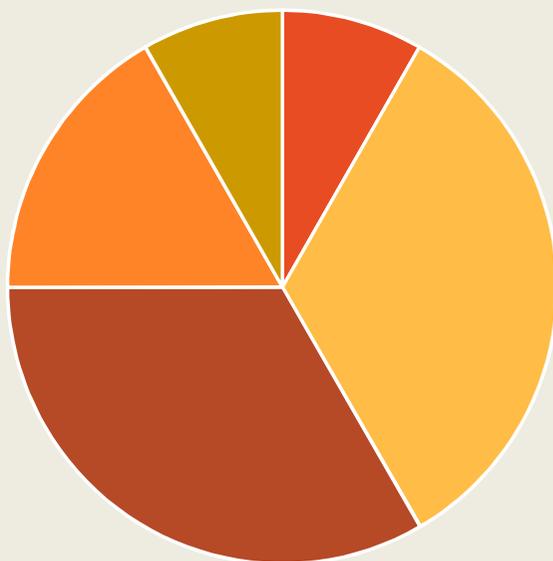
勤務中の職員総歩数の比較(機器導入前後)



ポイント

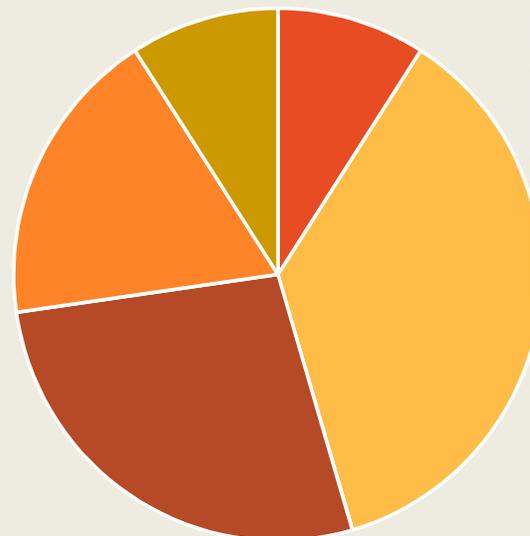
時間帯別精神的不安の軽減アンケート（日中帯）

導入前



- 非常にそう感じる
- ややそう感じる
- どちらともいえない
- あまりそう感じない
- まったくそう感じない

導入後



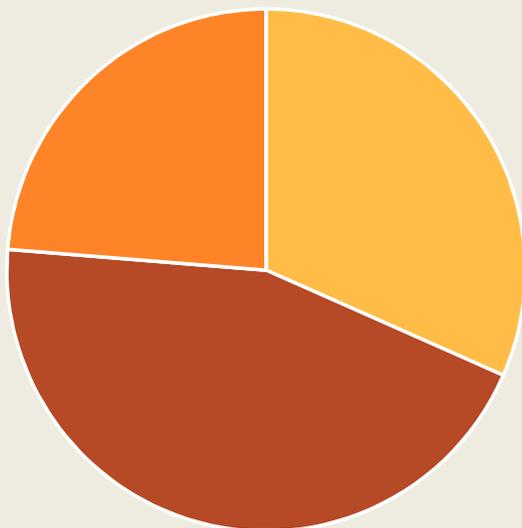
- 非常にそう感じる
- ややそう感じる
- どちらともいえない
- あまりそう感じない
- まったくそう感じない



ポイント

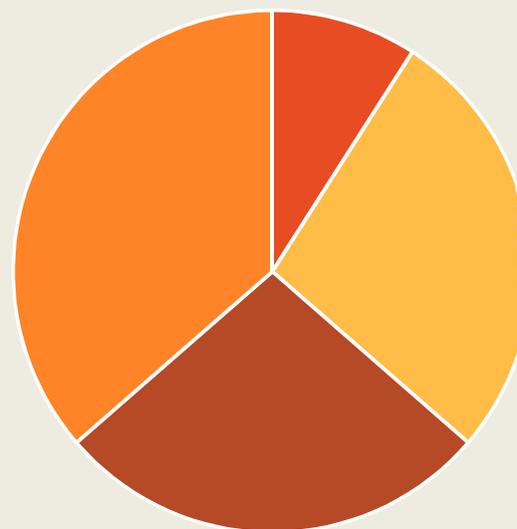
時間帯別身体的負担の軽減アンケート（日中帯）

導入前



- 非常にそう感じる
- ややそう感じる
- どちらともいえない
- あまりそう感じない
- まったくそう感じない

導入後



- 非常にそう感じる
- ややそう感じる
- どちらともいえない
- あまりそう感じない
- まったくそう感じない



ポイント

アンケート結果等に記載された数値以外の意見

- 手元の端末で映像として確認できるので危険を察知して素早く対応できるようになった
- 万能ではないがセンサーで呼吸や心拍数の異常を知らせてくれるのでリスク回避につながっている
- タイミングよく訪室すると、ご本人から「何でわかったの？何か見てたの？」と問われて、安心、安全を優先するあまり、監視されている感覚を持たせないようにしたいと思った
- 運営推進会議に参加されたご家族からは生体センサーを備えた見守りセンサー機器が導入されることは安心に感じますとの意見を頂けた



今事業実施によるまとめ

漠然とした中、手探りで始まったプロジェクトでしたが、課題の見える化により、居室内での転倒転落事故による入院者を減らすことを主目的として、機器の選定、スコアリングシートの数値化による対象者の選定と、根拠に基づいた流れを作ることで方向性が明確になっていきました。

とは言え、進めていく中では全職員への意識の共有の難しさもあり、機器の不具合などあると職員が目メリットよりデメリットに目が向く時期もありました。

ただ小さな成功例を積み上げていくうちに、プロジェクトメンバーの思いが皆に届いていったようで、メンバー以外の職員も当初より音やモニターを気にすることも増え、今は手持端末を持つことが当たり前になっています。

設定の変更や機器の不具合への対応策の徹底・周知など今後の課題も見えてきているので、アクションプランやマニュアルを活用し、今回のプロジェクトが入居者の生活の質の向上と安心安全な暮らしに役立つことを実証し続けていきたいと思えます。



ご清聴ありがとうございました

